

市町村名 伊平屋村

令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名 1-① 商工観光産業支援事業 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 第3章-3-(12)-ア

担当部課名 観光交通課 事業実施(予定)年度 平成24年度~令和3年度 沖縄振興基本方針該当箇所 観光リゾート産業の振興 III-1-(1)

事業内容 伊平屋村の持続的な観光振興を図るため、伊平屋島観光協会へ支援(観光誘客プロモーション、観光情報発信、民泊受け入れ支援、商工業と観光業の連携強化等)を行う。

効果発現年度 当年度 後年度(年度)

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他()

Table with columns for years (H29, H30, R1, R2, R3) and rows for budget status (initial, current, increase/decrease, surplus) and execution status (total, actual, next year surplus, execution rate).

Table for activity goals and achievement status. Columns include R3 activity goals, H30, R1, R2, R3 achievement status, and a detailed explanation of the achievement status.

Table for achievement goals and progress status. Columns include R3 achievement goals, baseline values, R1, R2, R3 achievement status, and target values, along with a detailed explanation of the progress status.

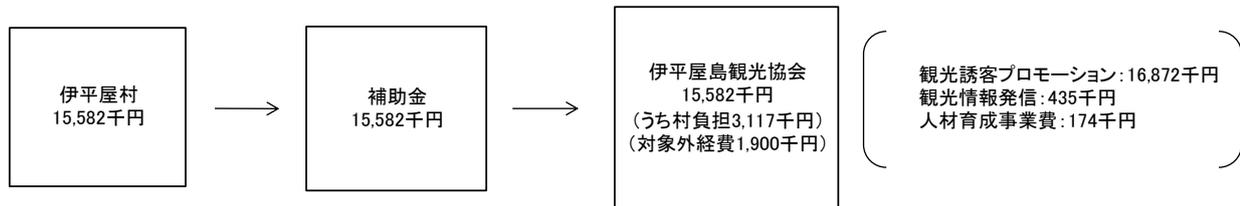
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(民家利用者数 4,987人以上) ・本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響が非常に大きく、社会的環境の変化により民泊受け入れは11月頃に2校の修学旅行の受け入れにとどまり、目標を達成することはできなかった。 ・新型コロナウイルスの影響があったものの、社会全体的に感染拡大が少ない時期に県外誘致活動のPR実施を行うことができた。 ・民泊事業の受け入れ民家向けのセミナーの実施。(防疫・ホスピタリティ) ・新たな観光メニューの作成に向けて、現在資格・研修などを受けて準備を進めている。個人旅行をターゲットとする内容であるため、既存の団体を対象とする修学旅行生を相手とするメニューとの棲み分けが課題となる。	(民家利用者数4,987人以上) ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により11月頃に2校の修学旅行の受け入れを行うだけとなったが、民泊事業を再開に向けて一步を踏み出したといえる。新型コロナウイルス感染症が収束次第すぐに民泊受入を再開する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の防疫対策のための研修の他、民泊事業では今まで以上にホスピタリティ能力が受入民家に求められるようになった。受入先やからの信頼を確かなものにすべく各種研修の継続が求められる。

今後の取り組み方針

(民家利用者数4,431人以上)
・新型コロナウイルスが収束次第、民泊受け入れを行えるように既存民家との調整をするとともに、新型コロナウイルス感染症の影響で民泊受入を停止している民家へのサポートなどを行い、安心して再開できる環境作りが求められる。また、オンラインでのPRも含め、コロナ禍以後を見据え引き続き県外誘致活動を積極的に推進する。離島であるデメリットを補えるオンライン環境を上手く使うとともに、リアルでのPRを効果的に使い分けできるようにする。
・コロナ禍以後の新たな観光メニューの作成に向けて資格取得や研修などを行ってきた。次年度以降に実施に向けて具体的に動いていく段階となる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
17,482	15,582	12,465	3,117	1,900



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は「伊平屋島観光協会」で、観光に資する団体であるため、事業内容と一致し適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後に検査を実施して、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は補助金以外にも、予算を充当しており妥当と考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光地イメージアップ推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	建設課	事業実施(予定)年度	平成24年～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	観光スポットに向かうアクセス道路や公園など多くの人が利用する公共施設等の除草や伐木、海岸の漂着ゴミの収集を行い魅力的な観光地づくりの推進を図る。						
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度) <input type="checkbox"/>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a)当初予算額	18,751	22,756	12,888	22,382	29,318
	(b)予算現額	18,446	16,807	10,898	26,219	29,318	
	(c)増減額(b-a)	▲305	▲5,949	▲1,990	3,837	0	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	18,446	16,807	10,898	26,219	29,318	
	B.執行済額	18,213	14,956	10,671	23,400	29,318	
	うち交付金充当額	14,570	11,964	8,537	18,720	23,454	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.7%	89.0%	97.9%	89.2%	100.0%	
予算の状況の説明		軽石の影響により海岸清掃に遅れが生じたが、委託期間を延長して実施することができたことから、執行率100%であった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	効率よく作業を行うためのチーム編成	目標	(16名)	(16名)	(16名)	(16名)	
		実績	21名	19名	16名	13名	
草刈機等のメンテナンス強化	目標	(作業後のメンテナンス実施)	(作業後のメンテナンス実施)	(作業後のメンテナンス実施)	(作業後のメンテナンス実施)		
	実績	作業後のメンテナンス実施済	作業後のメンテナンス実施済	作業後のメンテナンス実施済	作業後のメンテナンス実施済		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様建設業協会に委託したことにより、作業の管理が効率的に図られた。 ・機器等の老朽化により、想定以上に機器の整備が必要となったが臨機応変にリース等を活用し、効率よく作業を実施した。 ・新型コロナウイルスの影響もあり、募集呼びかけ等を行ったが目標の人員確保が困難であった。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	観光地周辺の景観形成及び道路環境について、観光地としてふさわしい景観及び道路環境であると感じたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方についてアンケート調査により検証する。	目標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実績		80%	80%	80%	
	【参考指標】 観光アクセス道路の美化清掃:29.5km 観光関連施設の美化作業:18カ所	目標	()	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	(29.5km 18カ所)	()
実績			51.6km 18カ所	51.6km 18カ所	51.6km 18カ所		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・来島者からは観光地にふさわしい環境であると回答を得られた。 ・県道田名野甫線、村道アグチャー線、村道クマヤ線、村道アツヤビ線、村道アサ線、村道田名島尻西線、村道野甫線、村道屋蔵線、我喜屋ダム線、村道灯台線の11カ所、観光地に関しては前泊後背地、念頭平松、米崎海浜公園、野甫展望台、伊平屋灯台、上ノ川公園、林道の7カ所 計18カ所の美化作業を行った。 						

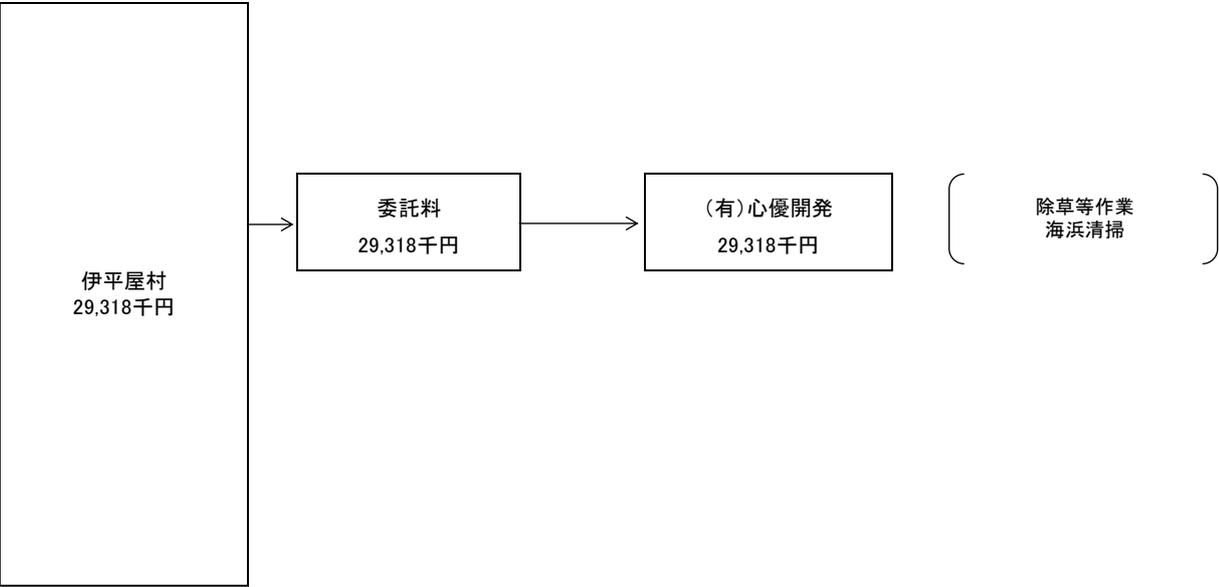
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・効果的な作業による標達成に向け、新型コロナウイルス感染対策を実施し、作業員の確保に努め、作業日数を継続的にかつ効率よく作業を実施する。</p>	<p>・季節風による11月～3月までの海浜漂着ゴミが多く、作業の実施時期の検討を行う必要があり、海岸景観を維持するためにも継続して行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

軽石の漂着や天候不良等の影響があったが、日程の変更および人員確保を委託事業と連携し参加可能な日にちを設定することで臨機応変に対応し作業することができた。今後も天候不良や新型コロナウイルス感染対策等の影響を鑑み、村・委託事業者および作業員と連携を図り効率的な作業の継続を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
29,318	29,318	23,454	5,864	0



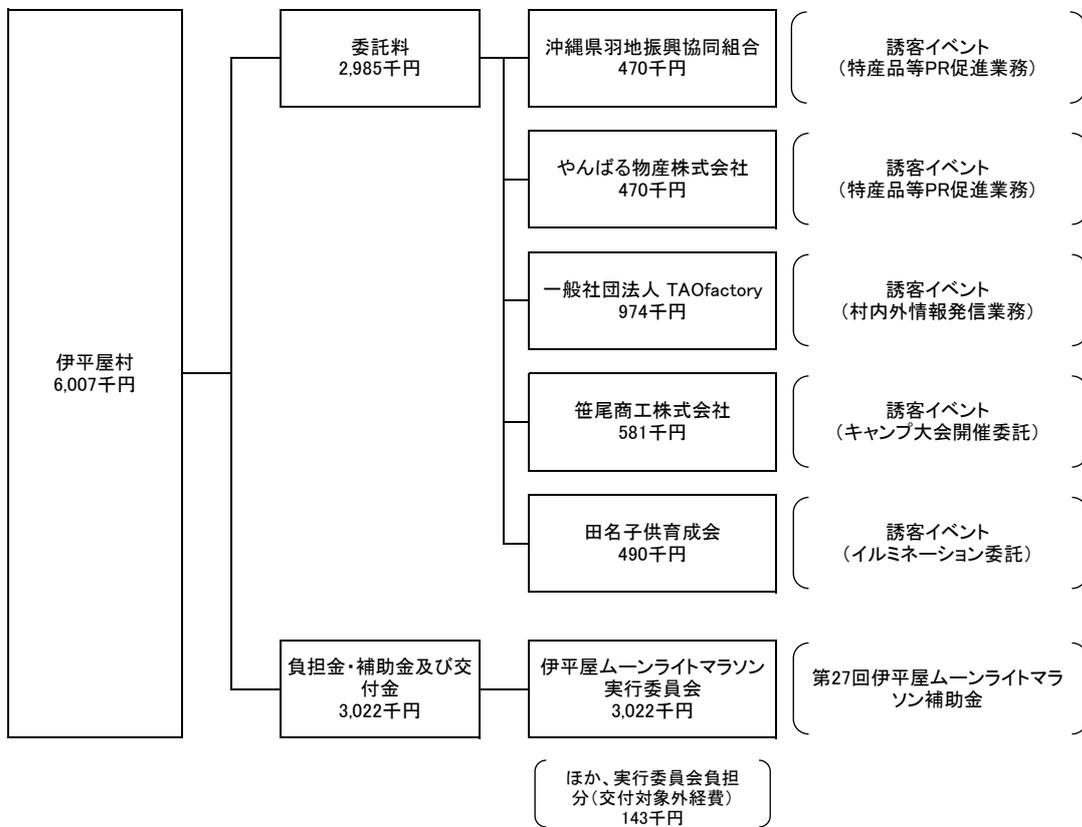
資金の 用途の 流れ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○村内の団体へ公募を行い、選定をしているため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支出先については、建設業協会実施代行者と委託契約を行った。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模については、事業内容に見合うものとする。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については事業目的達成の観点から必要性等について書類の検査を行い、適正と判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	誘客イベント推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部署名	観光交通課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	村のメインイベントである「いへやまつり」「伊平屋ムーンライトマラソン」や村の自然資源等を活用したイベント並びに、島外において「伊平屋村」をPRするイベントを開催することにより、入域観光客数の増加を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a) 当初予算額	35,222	44,235	41,477	39,900	41,094
	(b) 予算現額	35,222	44,235	40,957	9,250	6,150	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 520	▲ 30,650	▲ 34,944	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	35,222	44,235	40,957	9,250	6,150	
	B. 執行済額	33,135	43,766	40,808	9,127	6,007	
	うち交付金充当額	26,507	35,012	32,646	7,301	4,805	
	次年度繰越額	41,094	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	94.1%	98.9%	99.6%	98.7%	97.7%	
予算の状況の説明		新型コロナウイルス感染症及び軽石漂着の影響により、予定していたイベントの中止や延期を余儀なくされたことで34,944千円を減額補正した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・委託事業6件	目標	(8件)	(8件)	(5件)	(6件)	
		実績	8件	8件	5件	5件	
	・補助事業4件	目標	(4件)	(4件)	(1件)	(1件)	
実績		4件	4件	1件	1件		
達成状況説明	・委託事業については新型コロナウイルス感染症及び軽石漂着によるフェリーの欠航等の影響により中止4件、規模縮小1件、実施4件であった。 ・補助事業については全て中止となったが、「伊平屋ムーンライトマラソン」のみ、エントリー開始後に中止を決定したため既にかかった経費を実績としている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	村内入域観光客数13,315人以上	目標	()	(23,117人以上)	(12,136人以上)	(13,315人以上)	()
		実績	/	25,411人	13,315人	11,925人	/
		目標	()	()	()	()	()
		実績	/	/	/	/	/
進捗状況説明	・新型コロナウイルスの感染拡大により長引く緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の影響により予定していたイベントが中止や規模縮小となったことから、目標の修正を行った。対前年度比▲1,390人の減となり目標数に達しなかった。 ・YouTube等を活用した映像配信を予定していたが、イベント自体の開催が困難となったため実施できなかった。また、開催時期の延期を検討したが、まん延防止期間が想定より長期化したため、やむなく開催中止を判断した。 ・今年度もイベントの中止や規模縮小が相次いだ。SNS等の活用により、活動が制限された中でも、村外に伊平屋村をPRできるよう努めた。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・新型コロナウイルス感染症に加え、軽石漂着によりフェリーの運航に支障が出るなど、計画的なイベントの実施が困難であった。日々の潮流の変化や風の影響などにより、時間単位で港湾内の状況が変化し、運航状況の判断が難しいために、開催イベントへの参加をキャンセルする参加者も見られた。</p>	<p>・軽石についての対応は困難であるが、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、感染対策と誘客活動の両立を図れるよう取り組む。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・村のイベントへの参加を促進するため、引き続きSNSなどのインターネット等を活用してイベントのPRやフェリーの運行状況等の情報発信を行うとともに、関係各団体等と連携を図り誘客促進の強化に取り組む。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,150	6,007	4,805	1,202	143



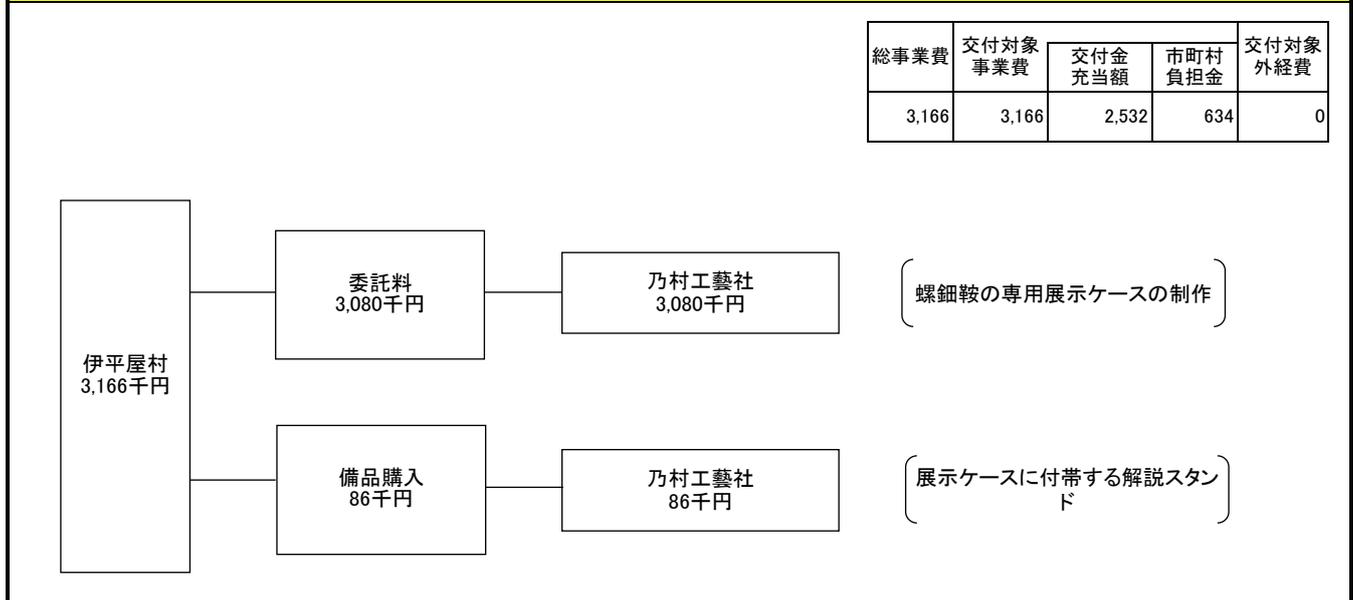
資金の流し、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業については、本村の地域性を十分考慮し積極的な事業を行っている村内団体、また村内外の業者とも情報交換を積極的に行え村内情報のPRについて高い効果を発揮できる団体を選定したため妥当である。補助金については、村の発展に寄与する団体で構成される組織を選定したため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業完了後検査を実施、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は交付要綱に基づき精査、妥当と判断する。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途については、精算段階で検査を実施、目的に即し必要なものであったと判断したため、限定していると判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	伊平屋村「琉球の兆し」普及啓発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	文化資源及び観光資源としての価値を高めるために村文化財の修復を行い、併せて案内解説板等の設置を行うことで観光客の利便性向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(R4年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(b) 予算現額	2,970	3,091	1,628	4,230	
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,158	0	0	0	
	(d) 繰越額	-					
	A. 計 (b+d)	2,970	1,933	1,628	4,230	0	
	B. 執行済額	1,687	1,933	1,628	3,166		
	うち交付金充当額	1,349	1,546	1,302	2,532		
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)	56.8%	100.0%	100.0%	74.8%	#DIV/0!	
	予算の状況の説明	螺鈿鞍の修理については、当初計画のとおり執行することができ、予算執行は適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	螺鈿鞍の修復作業実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
	漆工芸ワークショップの開催	目標	()	(開催)	()	(開催)	
		実績		未実施		未実施	
	ジオガイドブック作成完了	目標	()	(作成完了)	()	()	
		実績		作成完了			
	螺鈿鞍の修復作業実施専用展示ケース制作	目標	()	()	()	(作成完了)	
		実績				作成完了	
達成状況説明	螺鈿鞍修復作業については、長期間の展示に耐えうる文化財となるように修復師と密に連携をとり、修復対応を実施し、目標を達成することが出来た。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値 (年度)	R元年度	R2年度	R3年度	目標値 (R4年度)
			目標	()	(実施)	(実施)	()
螺鈿鞍の修復作業実施	目標		()	(実施)	(実施)	()	
	実績			実施	実施		
螺鈿鞍専用展示ケースの制作(100%)	目標		()	()	()	(実施)	
	実績					実施	
特別展示会の開催	目標		()	(実施)	()	(実施)	
	実績			未実施		未実施	
賀陽城跡案内板設置	目標		()	()	()	(実施)	
	実績					未実施	
ジオガイドブック作成完了	目標		()	(作成完了)	()	()	
	実績			作成完了			
歴史民俗資料館の入館者数(1,326人以上)	目標		()	()	()	()	(1,326人以上)
	実績						
進捗状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により、講演会等の開催を実施することが出来なかったため目標を達成することが出来なかったが、展示ケースの制作においては目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	文化財の高い価値を広く情報発信し、文化財の魅力を経済・文化を背景に、ストーリーして活用し、観光振興に繋げる取組を行う。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により観光客の入村が激減し、公開活用に関して当初計画通りとはならなかったため、広報や村ホームページの活用等により情報発信を検討する必要がある。	・文化資源の保存活用を図りながら観光産業、商工業の活性化を促進する方針は継続して取り組む。 ・村広報誌やホームページ等を積極的に活用し島外へ情報発信を検討する。観光客や来村する方を民俗資料館へ誘因するためポータターミナルや村役場等と連携を図る。
今後の取り組み方針		
村広報誌やホームページ等を活用した、村の伝統文化情報を発信することにより、螺鈿鞍に関する歴史的な文化財の高揚を図り、村文化財を観光資源とした誘客取組を実施する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○展示ケース制作会社で常駐の沖縄支社員のいる会社がないため選定方法は妥当である。 ○展示活用(保存継承)の経費に充当しているため、適切である。 ○費用・使途については精査段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	病害虫防除事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	さとうきびの生産性の向上と農家所得の向上を目指し、収穫量低下の原因となっている病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐため防除作業を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	7,693	7,693	7,877	7,129	7,877
		(b) 予算現額	7,002	7,693	6,335	7,129	7,877
		(c) 増減額(b-a)	▲ 691	0	▲ 1,542	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	7,002	7,693	6,335	7,129	7,877	
	B. 執行済額	7,693	7,002	7,349	6,335	6,320	
	うち交付金充当額	6,154	5,601	5,879	5,068	5,703	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	109.9%	91.0%	116.0%	88.9%	80.2%	
予算の状況の説明	当初の目標面積160haと計画していたが、R3年度収穫後の防虫剤設置面積が141haとなったため執行額においても、△1,557千円減額となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
	防虫剤(フェロモン剤)散布:160ha	目標	(160ha)	160ha	(160ha)	(160ha)	
		実績	168.3ha	141ha	160ha	141ha	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	伊平屋村さとうきび生産の目標値の160haに対し、フェロモンチューブ設置面積(目標)は目標を下回るに実績値となった。しかし、村全体での防除作業を効果的に実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	令和元年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	病害虫防除等によるさとうきび生産量の安定化	目標	()	(5300t)	(4,801t)	(5,277t)	()
		実績		4,237t	5,288t	4,282t	
	・病害虫の発生件数の抑制 平均 6.00匹/日以内	目標	()	()	()	平均 6.00匹/日以内	()
実績					平均 1.08匹/日		
進捗状況説明	病害虫(イネヨトウ)の発生時期前に、初期防除を行なったため被害を最小限に抑えることができた。成果目標である生産量の目標値は、令和2年度に工場の機械の不具合及び新型コロナウイルス感染者が確認されたことにより稼働停止となった。そのため、刈り取りが遅れ作付けも遅れたことにより生産量が目標値を大きく下回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫(イネヨトウ)はイネ科雑草・ほ場周辺緑部等の雑草にも寄生するため、農家による周辺雑草の管理について継続的な指導を実施し、さとうきび圃場の被害を防ぐ必要がある。 ・初期防除により病害虫(イネヨトウ)による被害を最小限に抑えることはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA及び生産農家・各関係機関と連携し共同防除として取り組み、イネ科等の周辺雑草等の管理も含めた肥培管理及び薬剤使用等の指導・啓蒙を引き続き推進し、さとうきび圃場の被害軽減および生産量の安定化を図る。 ・年度毎の病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、翌年度以降の成果目標に発生件数又は抑止件数を追加することで、病害虫(イネヨトウ)の被害を防ぐことを目的とした当事業の効果検証を明確化し、共同防除を行う生産農家の意欲向上を図る。

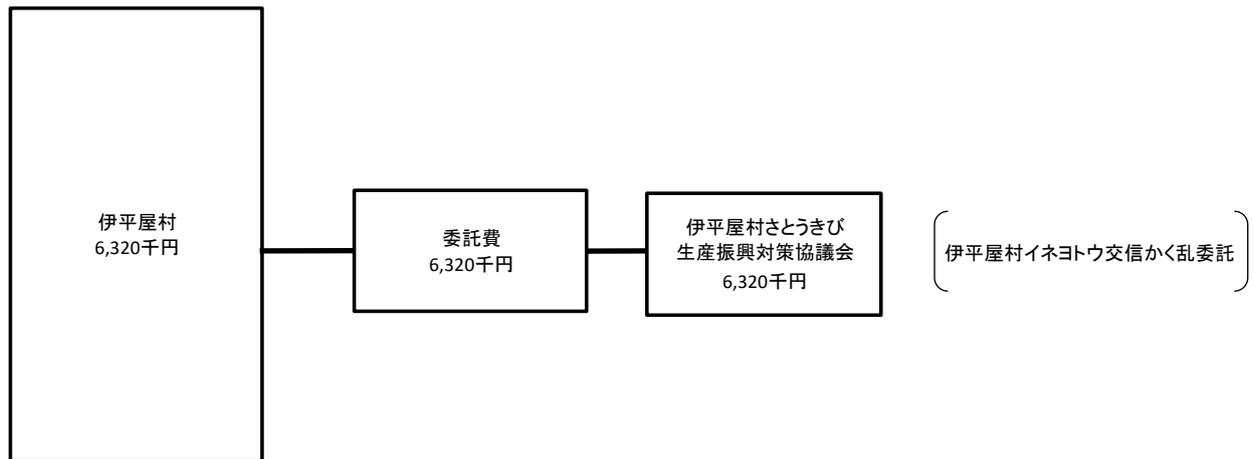
今後の取り組み方針

・JA及び生産農家・各関係機関と連携し、連絡会や総会等を通して肥培管理および薬剤使用等の指導を定期的に行う事で、病害虫(イネヨトウ)の慢性的な発生の未然防止に取り組むと共に、関係機関と連携した共同防除を継続し、生産量の安定化に向け取り組む。

・沖縄県病害虫防除技術センター等の病害虫予察情報等を活用し、発生動向を考慮した早期防除に取り組むと共に、病害虫(イネヨトウ)の被害調査を実施し、当事業の効果検証および今後の被害軽減に向けた目標設定を明確化することで、より効果ある共同防除に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費			交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
7,877	6,320	5,703	617	0



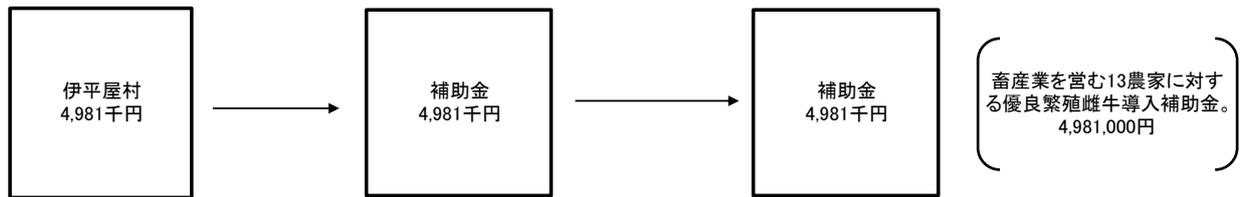
資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、村及びJA、生産農家等で構成されている伊平屋村さとうきび生産振興対策協議会を選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業内容に見合うものとする。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については、防除剤設置作業を生産農家等の協力により実施しているため、負担を無しとしている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	伊平屋村優良繁殖牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備	
事業内容	農家の経営安定化を図るため、畜産農家が行う繁殖牛導入費用の一部(上限を50万として、購入費用の半額を補助)を助成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,600	5,600	5,600	5,600	7,000
		(b) 予算現額	5,600	5,600	3,200	5,600	7,000
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 2,400	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	5,600	5,600	3,200	5,600	7,000
	B. 執行済額		5,535	5,544	3,132	4,635	4,981
	うち交付金充当額		4,428	4,435	2,505	3,708	3,984
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.8%	99.0%	97.9%	82.8%	71.2%
予算の状況の説明		優良繁殖雌牛導入補助金の助成上限額を1頭当たり50万円として計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるセリ値の価格低下により、昨年同様費用を抑えて購入することができたため執行額は減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	優良繁殖雌牛導入頭数14頭		目標 (14頭)	(14頭)	(14頭)	(14頭)	
			実績 14頭	8頭	11頭	13頭	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	新型コロナウイルス感染拡大の影響によりセリ値の価格低下による農家負担軽減があったものの、優良繁殖雌牛導入数13頭と目標を若干下回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合 102%以上		目標 ()	(106%以上)	(102%以上)	(102%以上)	()
			実績	108%	108%	107%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	本事業により導入した繁殖用雌牛から産まれた子牛とそうでない子牛を比較した結果、目標を達成することが出来た。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により島外への渡航自粛もあって、雌牛を購入(導入)する時期等農家へ導入計画の支援をおこなう必要がある。 ・子牛のセリ値については市場の状況により乱高下することもあることから、小・中規模の経営体が多数を占める本村においては、安定的な畜産経営が行えるよう中・長期的な経営計画策定や事業による支援等を引き続き必要とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内外において、繁殖用雌牛のセリ値は価格は下がっており、繁殖用雌牛の導入においては、例年に比べると費用を抑えて購入する事ができると考えられるため、早めに計画を立てるよう、関係団体と連携し説明会を開催するなど、農家の費用負担の軽減に努める。 ・畜産農家への支援としては、繁殖技術の向上等について講習会の開催や他地区との技術交流支援を行う。
今後の取り組み方針		
<p>母牛点数の高い雌牛を導入し、産まれた仔牛(雌)を新たな繁殖用雌牛として育成することや、白血病検査の実施によって品質向上を図り、引き続き事業継続による導入を支援していく。また、説明会・講習会の開催や他地区との技術交流支援、畜産共進会等への積極的な参加を推進することで繁殖技術の更なる向上と村内の繁殖用雌牛の改良・更新を図る。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,981	4,981	3,984	997	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、村内の畜産農家全員を対象としており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○自家保留する農家が増えたことにより減額となった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者への補助は、事業に係る費用の半額且つ上限額を定めており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、事業目的である繁殖牛導入に係る費用の補助のみとなり適正である。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	伝統文化継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所		地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成	
事業内容	島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、老人会等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		14,462	7,452	9,148	7,290	9,109
			14,983	8,752	7,946	7,290	9,109
			521	1,300	▲ 1,202	0	0
		B. 執行済額	13,944	7,084	6,958	6,691	2,215
		うち交付金充当額	11,155	5,667	5,566	5,361	1,771
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	93.1%	80.9%	87.6%	91.8%	24.3%
		予算の状況の説明	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、島外フェアの芸能祭は中止、また、伝統文化教室の開催数減、島内各集落の伝統文化イベントも中止が相次ぎ、執行額が大幅に減となった。				
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	伝統文化教室の開催(毎月第3水曜日)	目標	(14講座(11回))	(14講座(11回))	(19講座(11回))	(16講座(11回))	
		実績	19講座(11回)	14講座(11回)	19講座(8回)	16講座(6回)	
	各支部・団体への支援(6団体)	目標	(8団体)	(6団体)	(6団体)	(6団体)	
		実績	6団体	6団体	6団体	3団体	
	島外芸能公演の開催出演	目標	()	()	()	(1回)	
実績					0回		
達成状況説明	・伝統文化教室については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開催数が目標の約半分となった。 ・各支部・団体への支援については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で島外芸能まつりが中止、島内伝統芸能行事もほとんど中止となり、執行額が大幅に減となった。 ・成人式や、島発ち発表会(村学推実践発表会)の舞台発表の際に、着付・化粧講師より希望者2名を実践指導してもらった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	伝統文化教室への参加率:100%	目標	()	(100%(144名))	(100%(136名))	(100%(127名))	()
		実績		100%(144名)	100%(136名)	100%(127名)	
	伝統芸能演舞者数:80名	目標	()	(80名)	(80名)	(80名)	()
		実績		80名	66名	15名	
	来場者数:300名	目標	()	(400名)	(100名)	(300名)	()
実績			290名	140名	0名		
進捗状況説明	・伝統文化教室の参加率は100%を達成しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催数が目標値を下回った。 ・伝統芸能演舞者数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、区の豊年祭・島外芸能祭り等諸行事がほぼ中止となり、それに伴い演舞者数・来場者数は目標を大きく下回った。 ・伝統文化教室を10年間受講した村出身高校生3名が、島発ち発表会(村学推実践発表会)にて、舞踊・三線を披露し、後輩たちの伝統芸能への興味・関心を深める機会を提供できた。						

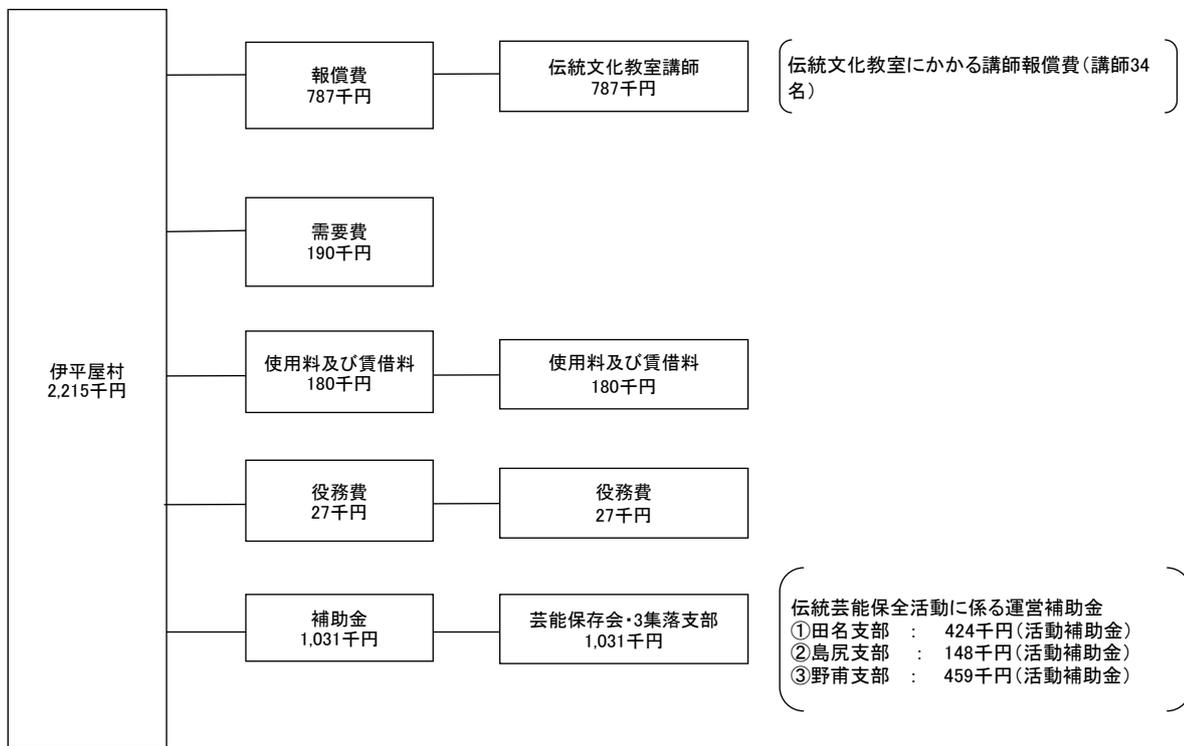
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、村諸行事の中止が相次ぎ、伝統芸能継承の機会が減少している。定期的な教室・体験講座開催等を維持するため、行事の有無を問わない伝統芸能・文化への興味関心を深める機会提供が必要である。 ・高齢化等、伝統芸能に関わる講師等が少ないため、教室の開催プログラム等を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・島内活動の見直し・改善を行うため、コロナ禍でも伝統芸能・文化の継承機会を維持できる教室の開催プログラム等の検討を図る。 ・子ども向けだけでなく、大人世代の伝統文化教室を開催するなど、後継者育成不足の課題に対応する伝統芸能・文化への興味関心を深める機会づくりの取組を推進する。

今後の取り組み方針

- ・講師の高齢化・人材不足解消に向け、地域人材リストの活用等、地域や村民俗芸能保存会と連携しながら、人材発掘から最終的に育成まで行っていく。
- ・講演会や行事等が中止等になった場合、伝統芸能・文化の継承機会を減らさない取組を推進するため島内活動の見直し・改善を検討し関係機関・団体と調整を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,215	2,215	1,771	444	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、計画内の3団体だったことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○計画変更に伴う増減はあったが、事業内容に見合った予算規模であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金に係る支出は、事業執行に必要な最低限な経費とし、それ以外は受益者負担であるため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的に即した費目・使途で適正に支出されたものとする。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	<p>個々にあったきめ細かい学習支援を実施するため、特別支援教育支援員を各所へ配置する。</p> <p>①村営塾の塾講師を配置し、家庭学習支援等教科指導を強化する。</p> <p>②特別支援を必要とする児童に対し、学校専属の支援員を配置し授業支援の強化を図る。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		24,652	20,768	23,125	23,150	23,150
			19,769	20,768	23,125	23,150	23,150
			▲ 4,883	0	0	0	0
			19,769	20,768	23,125	23,150	23,150
	B. 執行済額		19,725	20,120	22,539	19,424	17,186
	うち交付金充当額		15,779	16,095	18,031	15,381	13,748
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.8%	96.9%	97.5%	83.9%	74.2%
	予算の状況の説明		学校支援員を年度初めから配置できたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による村営塾の休塾等により、執行額が減額となった。				
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	特別支援を必要とする児童への支援員の配置名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	学習支援員の配置3名	目標	(2名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	3名	3名	3名	3名	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校特別支援員については、年度初めより1名が配置でき、目標を達成した。 ・学習支援員については、3名が配置でき目標を達成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、特別支援の対応に満足したか(80%以上)を含め、当該事業の在り方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		89.5%	85%	100%	
	沖縄県学力到達度調査における、県と本村との平均正答率の差 小学校(国語・算数・理科)-5.9ポイント以上 中学校(国語・数学・理科・社会・英語)-2.7ポイント以上	目標	()	(小:-3.15以上 中:-2.7以上)	(小:-5.9以上 中:-2.7以上)	(小:-5.9以上 中:-2.7以上)	()
		実績		小:-8.6 中:-17	小:+8.2 中:-11.2	小:+0.9 中:-7.9	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援対象となる児童生徒の保護者へアンケートを行った結果、学校支援員配置について満足度100%と出た。児童の成長(人材育成)に繋がるものとして、有意義だと考えていることが分かった。 ・学力到達度調査における県と本村との平均正答率の差については、小学校については目標値を上回ったが、中学校は、目標には至らなかった。しかし、前年度に比べて差を縮めることができおり、年々学力の向上が見られる。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により対面授業ができない日は、電話・オンライン等による学習支援を実施し、前年度より継続的な学習支援が出来た。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする児童が複数いるため、個々の発達状況に応じた細かい個別支援が必要がある。 今年度の新たな取り組みとして、黒板を使った授業と、オンライン端末を利用した動画授業を同一クラスで同時に実施することができた(習熟度別)が、成績上位者と下位者の学力差(授業態度等)の課題があるため、意欲のある生徒(成績上位者)の退塾・休塾等運営方針の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する特別支援、学習支援の在り方について保護者ニーズを把握するとともに、学校・保護者との密な連携や外部専門家との連携により、更に多角的・多面的に支援ができる取り組みを検討・推進を図る。 村営塾の学習支援員による定期的な学校訪問及び、学校ICT端末のログを活用し、個々の苦手箇所対策を学校と連携すると共に個別対応的質の向上(生徒一人一人の学力・つまずきポイントに応じた個別対応)を図る。
	→中学生の成果目標値は、県平均に年々近づいてきてはいるが、未達の状況が続いていることから、クラス・個人の苦手分野の把握とそれに応じた対策が不十分だと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 塾で定期的実施する模試結果及び学校のテスト結果を基に、クラス・個人の苦手分野を分析し、重点的にそれを克服する授業展開、自主学習の支援を実施する。

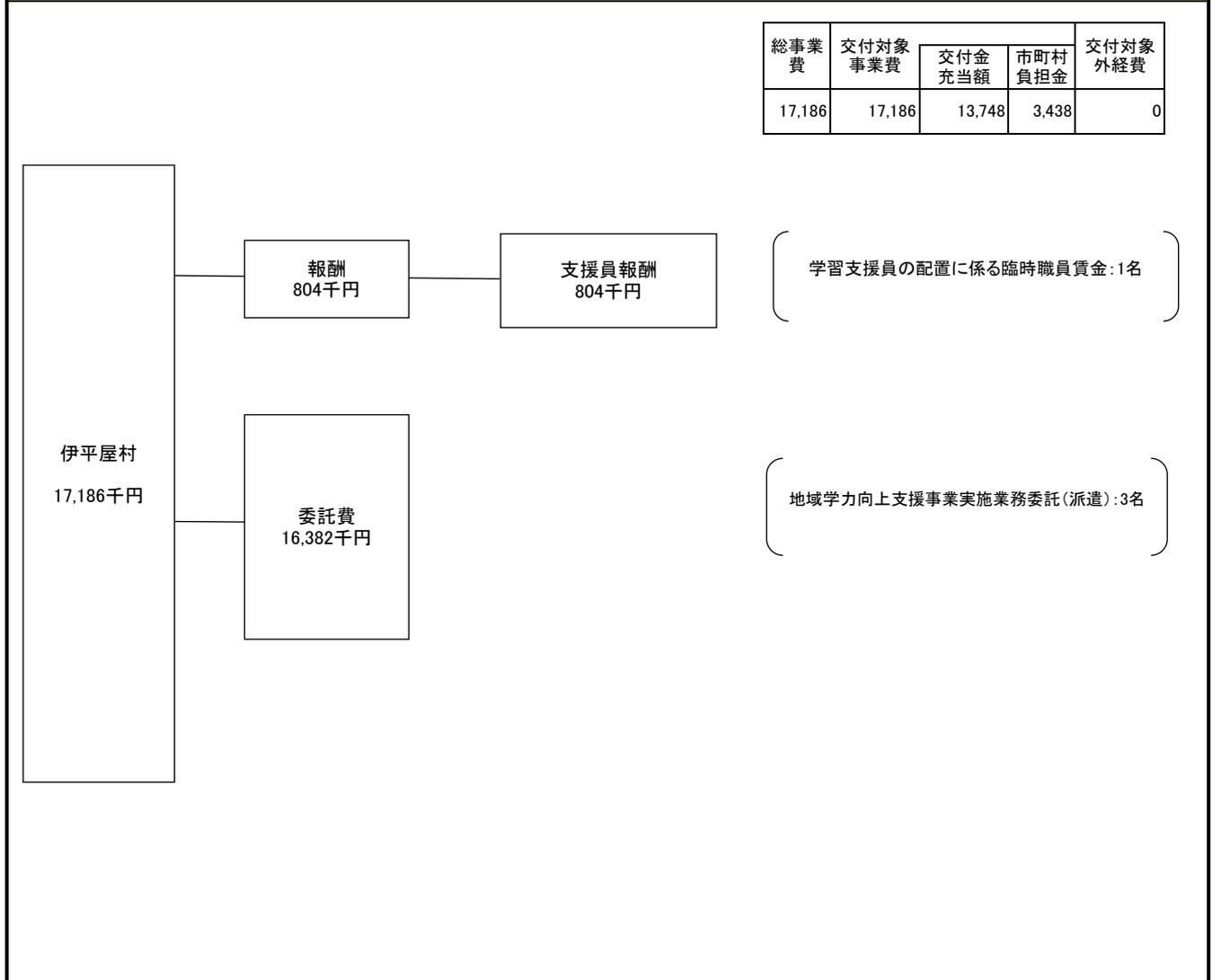
今後の取り組み方針

・児童・生徒の発達の多様化により、学習支援の在り方は日々変化・改善する必要がある。生徒一人一人に合わせた(例:成績上位者の更なる意識・学力向上支援、成績下位者の学力の底上げ、弱点に対する反復学習支援等)多様なサポート体制を構築するため、学校と塾の連携を強化し、学習支援の統一化を図るとともに、保護者へ協力を促し、主体的な学習支援を並行して行う。

・村営塾の学習支援については、学校と連携することでお互い相乗効果を得るべく、これまで以上に密なコミュニケーションが必要であることから定期的な協議会を設定し、運営の見直し・改善を行っていく。

・学校で導入しているICT学習ログ(学習記録)を活用し、クラス・個人の得意・苦手分野の把握とそれに応じた重点学習の支援を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員配置について、業務実績、実技能力を加味して選定しているため、妥当であったと考える。 ○計画変更による不用額を除いては、事業内容に見合った予算規模であったと考える。 ○事業目的に即した人件費・委託費の支出であることから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③	英語学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(ア)	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育委の推進		
事業内容	グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、イングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し、異文化を体験する機会を与える。また、イングリッシュキャンプでは英語での自己紹介・地域の紹介やスキットなど英語を使った発表機会を多く盛り込むなど、語学学習だけでなく幅広い表現力の向上を図ることを目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		1,890	1,930	1,930	2,150	2,110
			1,890	1,930	1,786	310	2,110
			0	0	▲144	▲1,840	0
			1,890	1,930	1,786	310	2,110
			1,834	1,832	1,692	242	174
		1,467	1,465	1,353	166	139	
			97.0%	94.9%	94.7%	78.1%	8.2%
	予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外短期留学派遣の実施ができず、県内英語学習プログラム(1週間)への派遣に切り替えて実施したこと、島内イベントの中止もあり、執行率が下がった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	海外短期留学(アメリカ):3名	目標	(3名)	(3名)	(3名)	(3名)	
		実績	3名	3名	中止	中止	
	イングリッシュキャンプ:30名	目標	(20名)	(30名)	(30名)	(中止)	
実績		32名	23名	27名	中止		
達成状況説明	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、毎年利用している海外短期留学プログラムが中止となり、他のプログラムも検討したが海外への派遣自体が難しく、県内英語学習プログラム(1週間)派遣に切り替えた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、島内で実施予定だった英語デイ・キャンプは、中止となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	保護者(派遣生徒)へのアンケートで、外国人講師との交流を通して、児童生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%)を含め、当該事業の在り方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		80%	87%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・海外短期留学派遣から、県内英語学習プログラム参加に切り替え1名派遣することとなったものの、アンケート結果の満足度は高かったことから、本事業における村内児童生徒に異文化体験の機会を設ける目的は達成できたと考える。 ・イングリッシュキャンプの参加者増に向け、プログラムを習熟度別・世代別にするとともに学校・保護者への積極的な呼びかけ、周知を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、島内英語学習プログラム(英語デイ・キャンプ)は中止となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止措置により海外短期留学派遣の実施が不可能となる場合があることから、県内英語学習プログラム派遣に切り替えて予備のプログラムの検討を図る。 現地開催による英語キャンプが新型コロナ感染拡大防止措置により中止になることが想定されるため、オンライン等代替プログラムの実施を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外短期留学派遣の県内英語学習プログラム派遣に切り替えたことについて、学校・保護者への周知が不足していたと考えられるため、積極的に参加を促すよう資料提供・説明会の工夫を検討する。 今後も感染症等による海外派遣の中止が考えられることから、代替案を実施する場合の、学習内容(プログラム)の精査、継続的な他市町村との連携協力により、より充実した英語学習支援を行う。 イングリッシュキャンプの現地開催が中止になった場合に、オンライン開催等、島内の人材で実施できるプログラムを事前に準備するなど各関係機関と取組を円滑に行うよう情報共有や検討を図る。

今後の取り組み方針

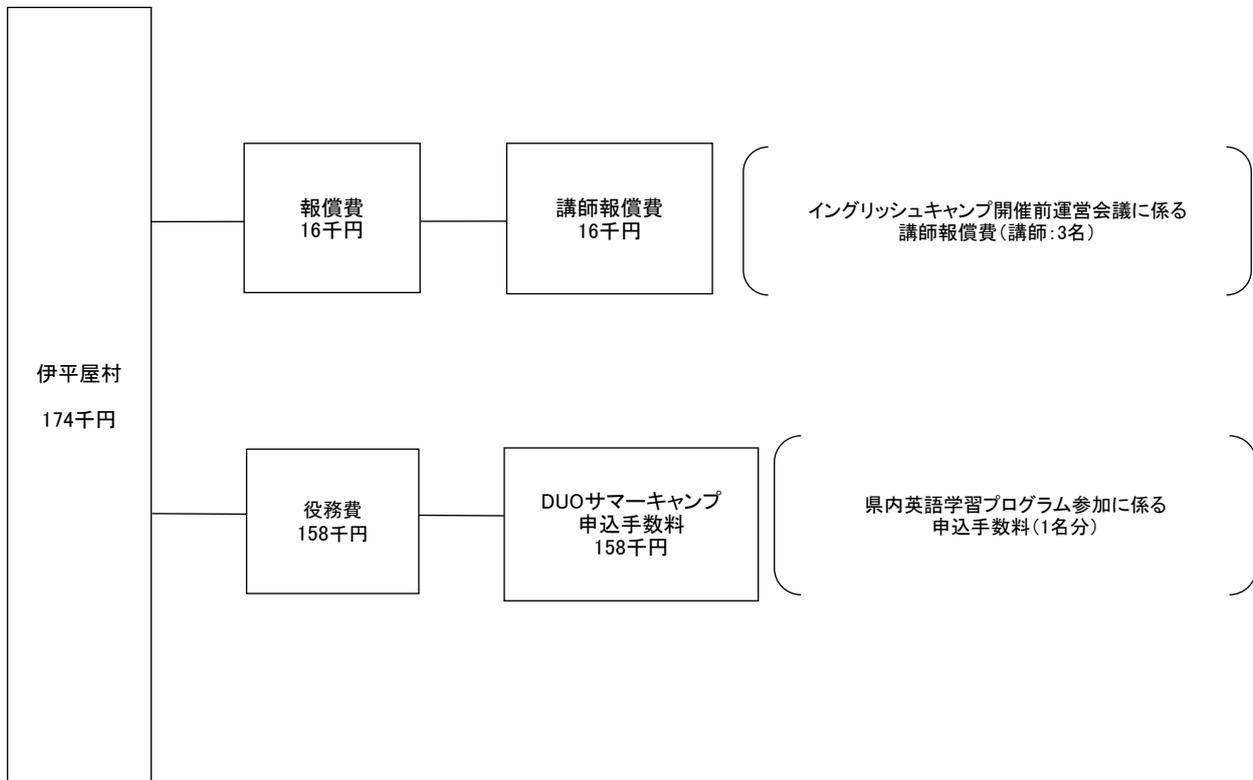
・海外短期留学派遣について、持続可能な学習支援の提供を目指し、代替案実施を含め、他の市町村・外部機関とも連携を取り事業を推進するとともに、生徒・保護者に魅力を感じ取ってもらえる説明会の開催や周知を図る。

・英語デイ・キャンプを島内人材でも実施可能にするための準備を実施し、参加者増に向け、プログラムの内容を習熟度別・世代別にする等、各参加者が深い学びを獲得できる教室の内容を見直し、併せて学校・保護者への積極的な呼びかけの周知を実施する。

・海外派遣の中止に伴う代替案実施の際の、事前・事後研修等の島内ALT活用による継続的な学習支援を図る。また、英語・デイ・キャンプにおいても、島内ALT及び地域人材を活用し、オンラインまたは数回の小規模開催等、開催方法を都度見直しながら持続可能な学習プログラムを構築する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
174	174	139	35	0



資金の流 れ、費目・ 点検項目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○海外派遣の中止に伴う代替案(県内の英語学習プログラム参加)は、予算・安全性などから選定については妥当だったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○計画変更があったが、それ以外は事業内容に見合った予算規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	伊平屋島児童・生徒島外派遣支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
事業内容	村外で実施されるスポーツ大会や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、本島との交流機会が少ない離島の特殊性の平準化に努め小規模校では経験できない他地域との交流や各種イベント・スポーツ体験を通し、児童生徒の健全な育成を推進するため、派遣費用を助成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,906	2,135	2,135	2,151	2,151
		(b) 予算現額	1,707	1,635	858	1,310	2,151
		(c) 増減額(b-a)	▲ 199	▲ 500	▲ 1,277	▲ 841	0
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	1,707	1,635	858	1,310	2,151
		B. 執行済額	314	617	749	164	773
		うち交付金充当額	251	493	599	131	618
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	18.4%	37.7%	87.3%	12.5%	35.9%
	予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症拡大防止等の影響により各種大会の開催制限があり、執行率においても大幅な減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(小学生4回・60名)	目標	(9回) (135名)	(9回) (135名)	(4回) (60名)	(4回) (60名)	
		実績	7回 88回	7回 136名	1回 20名	7回 52名	
	島外開催イベント及びスポーツ大会、文化交流等への参加(中学生4回・216名)	目標	(6回) (324名)	(6回) (324名)	(4回) (216名)	(4回) (216名)	
		実績	16回 135名	9回 81名	1回 26名	6回 97名	
達成状況説明	新型コロナウイルス感染症拡大や各種スポーツクラブ(部活動)メンバー数の減少の影響により、派遣人数が目標値を下回る結果となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	派遣された児童・生徒の保護者へのアンケートで、児童・生徒が広い視野をもてたか(80%以上)を含め、当該事業の在り方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		80%	80%	100%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	昨年度に引き続き、各種大会の開催制限があったものの、村内の児童生徒に可能な限りイベント、スポーツ体験の機会を学校・地域と連携しながら検討した上で派遣に繋げたことから、派遣回数については目標値を上回った。アンケート結果の満足度(広い視野がもてたとの回答:0%)は高かったことから、本事業における他地域との交流や各種イベント・スポーツ体験を通し、児童生徒の健全な育成を推進する目的は達成できたと考える。					

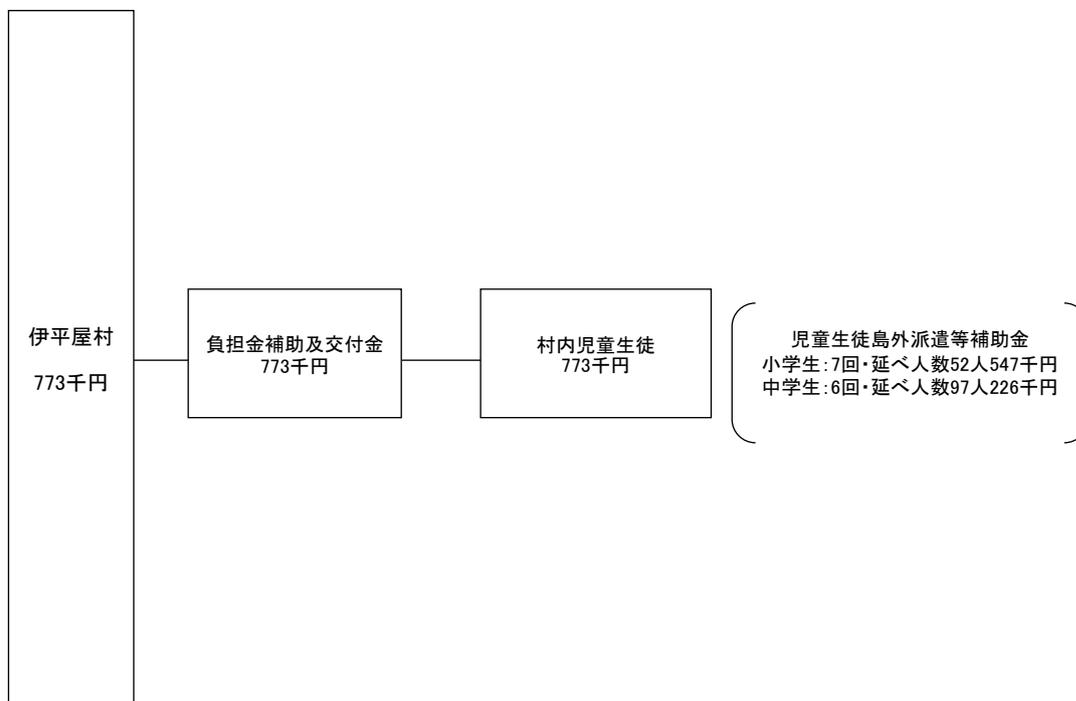
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 大会派遣は昨年度より増えたが、村内スポーツクラブメンバーの減少が派遣人数減に繋がっていると考えられるため、村内スポーツクラブメンバー増加のための取組が必要。 文化系大会への派遣が少ない。(派遣内容がスポーツに傾倒している。) 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体活動のPR機会を設け、メンバー増を図る。 学校や教育委員会を通し、文化系大会への参加を奨励する。また、島外イベントとリンクしている村内大会(しまくとぅば大会・少年の主張大会等)を上手く活用し、活動促進を図る。

今後の取り組み方針

・村内各行事等において、団体PRの実施、または定期的な体験入部機会を設ける等、各種団体へ参加する児童・生徒の増加を目指す。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による大会の開催制限は今後も発生することを踏まえ、学校・地域と連携をとりながら「新しい生活様式」の徹底に努め、交流や各種イベント・スポーツ大会等が積極的に実施できるよう取り組んでいく。
 ・体育系大会派遣同様、文化系大会への派遣を増やすべく、児童・生徒及び、地域・保護者の興味・関心を深めるため、周知方法改善・運営協力依頼等行い、島内各種文化系イベント(大会)の活性化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
773	773	618	155	0



資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出は、児童生徒の所属する団体であったことから妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○中止・延期に伴う大会の開催制限以外は、事業内容に見合った規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○船賃及び宿泊費以外の経費については受益者が負担していることから妥当であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	伊平屋島起業家人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部署名	観光交通課	事業実施(予定)年度	平成26年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	15歳で伊平屋村から島立ち(離島)する生徒へ伊平屋村の資源を活用した商品開発と、作製した商品を実際に店頭で売る販売体験、沖縄本島での職場体験学習を行い、島への誇りと愛着を醸成による起業家マインド・キャリア育成を通し就業意識の向上を図ることを目的とする。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,248	3,867	4,778	4,809	4,809
		(b) 予算現額	4,248	4,198	4,168	4,809	4,809
		(c) 増減額(b-a)	0	331	▲ 610	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	4,248	4,198	4,168	4,809	4,809
		B. 執行済額	3,604	3,854	4,021	2,187	432
		うち交付金充当額	2,883	3,083	3,217	1,708	346
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	84.8%	91.8%	96.5%	45.5%	9.0%
予算の状況の説明	商品開発新型コロナウイルス感染症の影響により、島外での職場体験・販売体験を行うことができなかった。また、同理由で授業実施に係る村外サポーターの来島人数が、見込み人数よりも減った他、授業内で商品の作製を本年度は行わなかったことで、役務費をほとんど使用しなかった。 予算の多くを占める報償費・旅費・役務費の使用が大幅に減少したこともあり、執行率8.7%にとどまった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)	達成状況					
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・商品開発を通じた生徒への研修	目標	(研修の実施)	(研修の実施)	(研修の実施)	(研修の実施)	
		実績	研修の実施	研修の実施	研修の実施	研修の実施	
	・パッケージデザイン決定	目標	(デザイン決定)	(デザイン決定)	(デザイン決定)	(デザイン決定)	
		実績	デザイン決定	デザイン決定	デザイン決定	未実施	
	・商品開発・職場体験を通じた商品の発表会	目標	(発表会実施)	(発表会実施)	(発表会実施)	(発表会実施)	
		実績	発表会実施	発表会実施	発表会実施	発表会実施	
	・本島への職場体験(商品の販売)及びマナー講座	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	未実施	未実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・村内中学1年生の商品開発授業に関しては、新型コロナウイルスの影響で10月からの開始になった。さらに商品開発授業で生徒の意見を尊重したが発生し、商品開発の担当業者が変更となったこともあり、3月までに2回の授業にとどまった。 ・緊急事態宣言などで授業の開始が9月頃までずれ込んだことが影響して、パッケージデザインの作製の段階まで商品開発授業を進めることができなかった。 ・村内中学2年生は、新型コロナウイルスの影響で本島での職場体験および令和2年度に自ら開発した特産品の販促体験を実施することはできなかったものの、村内での職場体験と沖縄本島内スーパー・道の駅での委託販売を行った。 ・中学1年生及び2年生共に、商品開発・職場体験を通じた発表会にて、展示物・掲示物での発表を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケートで、働くことへの興味・関心が湧いたか(85%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(85%以上)	(85%以上)	()
		実績			81%	38%	53%
進捗状況説明	・当該事業の検証について、働くことへの興味・関心が湧いたかアンケートを実施したところ、新型コロナウイルスの影響で沖縄本島での職場体験や販促体験が行えなかったこともあり、目標値の85%には届かず53%だった。 商品開発授業に関しては、1年生の授業が3月までに終わらなかったため、次年度に継続する予定となっている。						

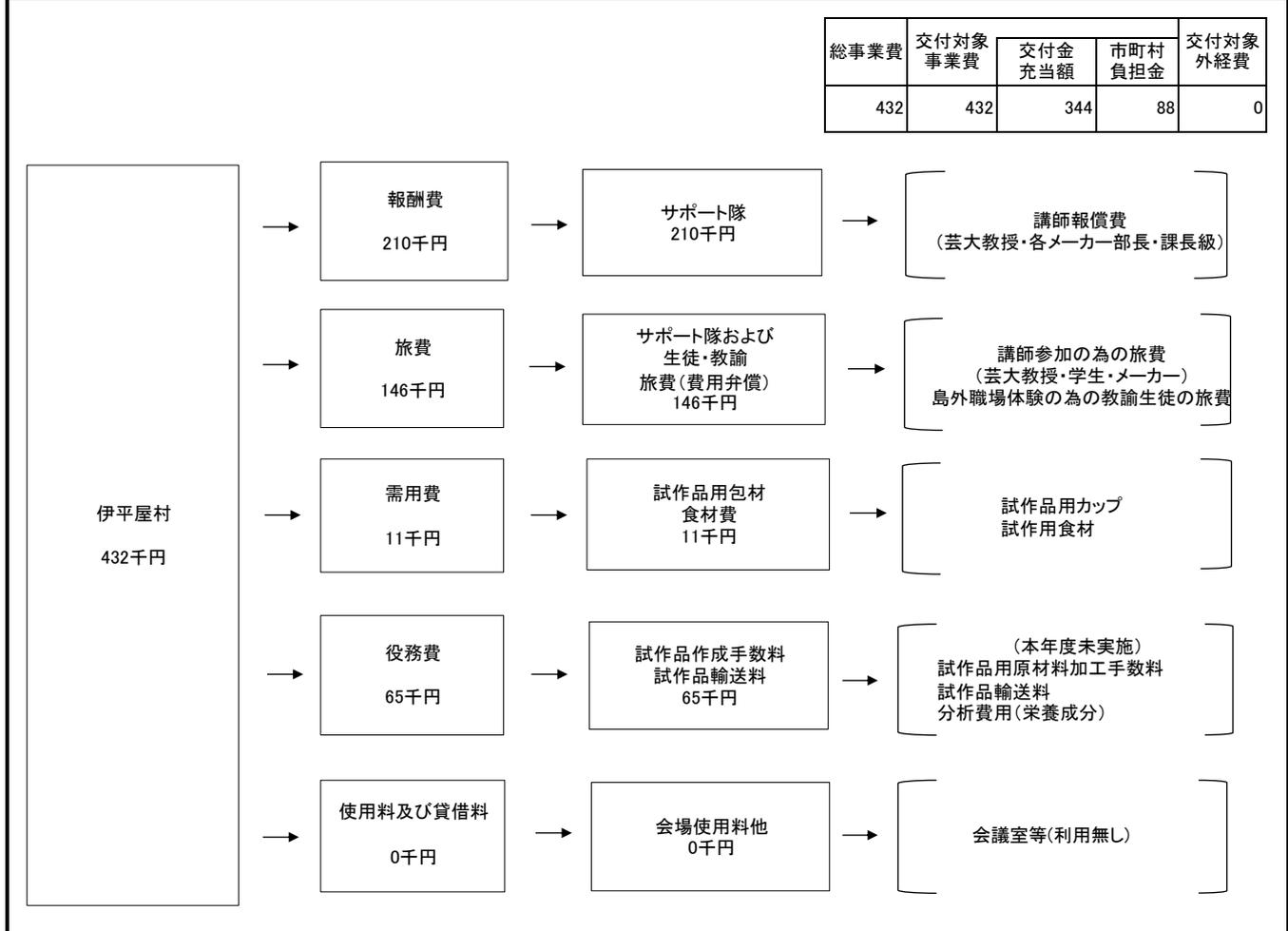
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<p>(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度は新型コロナウイルスの影響により、1年生の商品開発授業では村内企業に依頼していたが、作製できる商品が生徒たちの支持が得られなかったこともあり、途中から沖縄本島企業に変更することとなった。授業内容を令和3年度内に実施できなかったこともあり、令和4年度にあらためて新2年生の授業として行う予定である。 2年生の授業では沖縄本島の職場体験や、令和2年度(当時、1年時)に開発した商品の販促体験が中止になったことにより、中心的な取組ができなかったため、生徒たちの働くことへの興味・関心が低い状況となり目標未達成の要因であると考えられる。 対面での販促体験の代替措置として店舗での委託販売をおこなった。 本島での職場体験・販促体験が実施できなかったことが、アンケートでの結果に繋がっていると思われる。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年通りの授業を行うことが難しく、結果として生徒の心情や満足度に配慮できていなかった部分があった。外部講師や担任教師と連携し、授業効果を高めたい。 新型コロナウイルス感染症の影響および外部環境の変化(中学校の総合授業時間減など)もあり、中学生のキャリア教育にかかる内容で、事業内容の変更を検討する時期に来ている。 	<p>(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業に関しては、講師の希望やグループワーク・ディベートを中心とした授業内容の性質もあり、実施できなかったが、オンライン授業が可能な内容に関しては今後も検討していきたい。 沖縄本島内での職場体験や販促体験に関しても、職場体験受入先と協議しコロナ禍でも行えるよう取組・検討を行う。 本事業の性質上、直ぐに効果発現が得られるものではないため、継続的な取り組みが必要である。 外部講師や村内・村外団体との連携が欠かせない事業内容であるが、現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、事業実施に関して大きな影響を受けている。事業内用の見直しを行い、正常に実施できる計画を立てる。

今後の取り組み方針

(キャリア教育を受けた児童生徒へのアンケート)

引き続きキャリア教育に取り組むとともに、事業内容のとおり島で起業する力を身に付けさせるための授業プログラムの構成を行っていく。また、地域・学校・行政が一体感を持って取り組めるよう、情報を共有し、さらに生徒たちに授業内容のアンケートを定期的に取り、生徒たちの満足度や、生徒の就業意欲を高めるように改善を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については、この事業に特化した企業等を選択、継続的な事業であるため、専門性が高く妥当であると考ええる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容を精査したところ、事業内容に資する規模と判断したため妥当と考ええる。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について支出に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		伊平屋村					
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	自動車航送コスト負担軽減事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	総合経営企画課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	本村と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減し定住環境の改善を図るため、その一部を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		57,100	63,562	67,064	67,041	67,041
			65,074	67,993	70,869	55,806	67,041
			7,974	4,431	3,805	▲ 11,235	0
			0	0			0
			65,074	67,993	70,869	55,806	67,041
	B. 執行済額		64,464	67,993	70,027	55,806	63,474
	うち交付金充当額		51,571	53,394	56,021	44,645	50,779
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		99.1%	100.0%	98.8%	100.0%	94.7%
予算の状況の説明		前年度と同額程度の利用を想定し当初予算を計上したが、新型コロナウイルス感染症の拡大と、軽石等の影響により利用が減ったことで補助金が3,567千円減額となり、執行率94.7%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	自動車航送運賃の低減 R3年度:年間6,300台 (H26年度:4,570台)		目標 (自動車航送運賃の低減 年間6,240台)	(自動車航送運賃の低減 年間6,300台)	(自動車航送運賃の低減 年間6,300台)	(自動車航送運賃の低減 年間6,300台)	
			実績 6,493台	6,608台	5,176台	5,856台	
			目標 ()	()	()	()	
達成状況説明		新型コロナウイルス感染症の拡大及び軽石等の影響があったものの、目標値の92.9%を達成することができた。村民への事業周知が浸透してきていること、また村民の経済活動の活性化も図られ、村民生活に欠かせない自動車航送運賃コストの低減による定住環境の改善が図られていると考える。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(年度)
	沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたか(80%以上)を含め、島民へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。		目標 ()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実績	100%	95%	98%	
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		島民へのアンケートを実施した結果、98%の人が沖縄本島へ移動しやすい環境の構築が図られたと感じると回答している。このことから当事業において、医療機関への通院や冠婚葬祭、教育関係行事等での沖縄本島までの移動手段が確保され、村民の経済的負担が軽減されたことにより、定住環境の改善が図られたと考える。また、運天港と本村フェリー及び前泊港3方で予約情報についての情報共有を行い、住民および観光客へチケット購入についての運用に理解と協力を得ることで、より安全・安心で効率的な車両乗船が行えるよう取り組むことができた。					

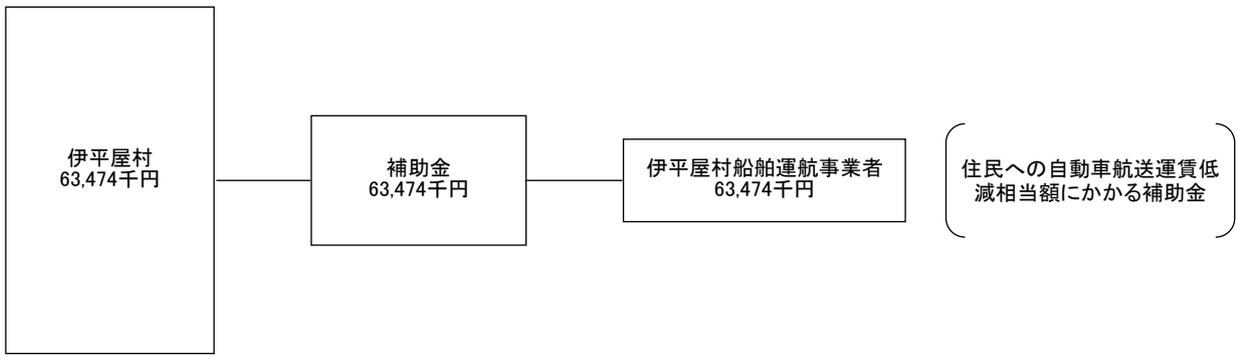
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響や軽石漂着によりフェリーの運航に支障が出るなど、欠航を与儀なくされた日もあり、また日々の潮流の変化や風の影響から時間単位で港湾内の状況が変化し、運航状況の判断が難しい状況があった。</p>	<p>・運天港、チケット売り場、フェリーが事前予約状況を確認の上、連携を図り事前予約の30分前にはキャンセル待ちの方の車両乗船手続きを行うなど効率的な体制を構築する。</p> <p>・事前予約後も当日の30分前にはキャンセルとなることを徹底周知することにより住民の理解も浸透しつつあるため引き続き協力が得られるよう周知していく。</p>

今後の取り組み方針

・車両予約確認体制の継続においては、運天港、村チケット売り場、フェリーと事前の車両予約状況を把握・確認し当日の最大積載内容を確認しつつ、チケット購入に係る運用体制を強化する。当日の悪天候や欠航が発生する場合は、村ホームページや防災無線を活用し、出発の1時間半前には出港の可否を判断するなど、村観光交通課、フェリー、運天港の3方で連携を密にし取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
63,474	63,474	50,779	12,695	0



資金の流れ、点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先については公益性があり妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、概ね妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担については沖繩離住民等交通コスト負担軽減事業を参考にしているため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、事業目的達成において支出等に関する書類により確認し適正であった。

市町村名	伊平屋村							
令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4-③	伊平屋村救急体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ			
担当部課名	伊平屋村総務課	事業実施(予定)年度	令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化			
事業内容	本村は一般団員から構成される消防団となっており防災に取り組んでいる消防車両の老朽化に伴い、消防活動の安全な活動を実施するため車両の強化を図ることにより住民及び観光客等の安心安全の確保、また防災体制の強化による住みよい村づくりを目指す。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R4年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	45,000					
		(b) 予算現額	43,022					
		(c) 増減額(b-a)	▲1,978	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0					
		A. 計(b+d)	43,022	0	0	0	0	
	B. 執行済額		43,022					
	うち交付金充当額		34,417					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		車両購入にかかる当初計画のとおり執行することができ、予算執行は適正であったと考える。また、入札の執行による入札残額が△1,978千円となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R3活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	消防車両 1台	目標	(1台)	()	()	()		
		実績	1台					
			目標	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	新型コロナの影響により、整備途中経過の確現地認・状況調査による中間報告等の調整に日数を要したものの当初の計画通り年度内に車両の確保が出来た。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R3成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R4年度	R5年度	目標値(R4年度)	
	消防車両 1台	目標	()	(完了)	()	()	()	
		実績		完了				
	【参考指標】 消防団の訓練の実施(12回以上/年)により、緊急車両(消防車)の活用のあり方を検証する。		目標	()	()	()	()	(12回以上)
			実績					
進捗状況説明	確現地認・状況調査により車両の整備状況を確認しながら年度内納品に向けて事業完了をすることができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止措置により、離島から沖縄本島間の渡航自粛もあり整備にかかる実施状況確認に時間を要した。</p>	<p>関係機関と連絡・調整を行い、年度内完了に向けて進捗状況を随時確認することで仕様内容と整備に齟齬がないか事前協議を図る必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>車両整備後は、団員の各個人のスキルアップを目指した研修への参加・演習を通じた車両の取り扱い・作業能力の把握に努め、消防活動における効率化を図る。また、医療機関・駐在所・行政等が連携を図り、消防体制の連絡を密に地域に根ざした活動を実施していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
43,022	43,022	34,417	8,605	0

```

graph LR
    A[伊平屋村] --> B[備品購入費  
43,022千円]
    B --> C["(株)消防災沖縄営業所  
43,022千円"]
    C --- D["水槽付き消防ポンプ車  
備品購入費"]
  
```

資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○業者の見積もりをもとに積算したので予算規模は適切であったと考える。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	